

指導と評価の計画【公民科：公共】

<b>単元名</b> 法の意義と司法・政治参加	<b>内容のまとめ</b> 社会規範と法 契約の考え方 司法の役割 政治と権力
----------------------------	---

1 単元の目標

法の基本的な考え方に関する正確な理解に基づき、身近な主題についてさまざまな考え方を踏まえて判断し、みずからの意見や主張を表現することを通じて、法の意義や司法参加について関心を高める。自分の意見を表現することを通じて、政治参加と公正な世論の形成等について理解する。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・法や規範の意義および役割、多様な契約および消費者の権利と責任、司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きにのっとり、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解している。	・自立した法的主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	・法や規範の意義および役割、多様な契約および消費者の権利と責任、司法参加の意義などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。  政治参加と公正な世論の形成などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。

3 指導と評価の計画（4時間）（○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」）

次	時	学習活動	評価の観点			評価規準等
			知	思	態	
第①次	第1時	<b>主題や問いに対する見通しを持つ</b> 社会規範や法律について、実生活を元に各人の意見や利害を調整し、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて見通しをもつ。  <b>課題を追及したり解決したりする</b> 「ルールやマナーについて」「法律はなぜあるのか」 「迷惑系 youtube について」という問いかけについて ペアワークで考察し、自身の考えを文章にできる。	●			（活動）ペアワークの実施 社会規範や、法律の役割 について理解する

第②次	第2時	<p>【ねらい】 消費者問題から権利の考えを用い、社会規範や法律について考える。</p> <p>【課題】 消費者問題が起こるのはなぜだろうか？</p>			
	<p><b>課題を追及したり解決したりする</b></p> <p>資料や既習内容を活用し、ペアワークにより、消費者としての権利や契約の成立について、事実をもとに表現することが出来る。</p>	●	<p>他者との権利のトラブル(消費者トラブル)において、具体的な権利や制度をもとに考察できる。</p>		
第②次	第3時	<p>【ねらい】 法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解している。</p> <p>【主題】 模擬裁判を実施して、司法参加について考えよう。</p>			
	<p><b>課題を追及したり解決したりする</b></p> <p>資料をもとに、個人による、量刑を根拠を持ち考察し、グループワークでの評議、評決を通し、社会秩序の形成に関わろうとしている。</p>	○	<p>法や規範の意義および役割を理解し、主体的に社会に関わろうとしている。</p>		
第②次	第4時	<p>【ねらい】 具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。</p> <p>【主題】 携帯電話の利用について根拠をもって考えよう。</p>			
	<p><b>課題を追及したり解決したりする</b></p> <p>資料をもとに、個人による、意見もち、グループワークでの話し合いにより合意形成に参加し、論拠をもって表現することができる。</p>	○	<p>自身の意見をもつことができ、事実をもとに協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。</p>		

#### 4 「指導と評価の一体化」を踏まえた学習評価の改善について

～話し合いや発表する授業を設定し、評価をする。～

A：模擬裁判の実施による評価      B：合意形成の授業による評価      について主に取り組んだ

A：模擬裁判の実施による評価【項目：「主体的に学習に取り組む態度」】

・第3時の○印は、「司法の役割」に関して、法や規範に基づいて権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解し、司法参加の意義など課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしているかを評価する場面を想定している。

【評価基準】・評価をする上での必須項目

- ・個人の意見を多角的に考察できている（被害者・加害者の立場から）
- ・個人として量刑について判断できている
- ・グループワークに参加し結論を出すことができる

【上記の条件を満たしたうえで（基本的にはワークシートへの記載をもとに判断するため、授業参加者全員が満たすこととなる）】

・法や権利について学んだことを踏まえ、よりよい社会秩序の形成に対して、多角的に（被害者・加害者の立場から）意見を明確に記入し、なおかつ、合意形成後に出た結論に対しても被害者・加害者の立場から考察できているものは「満足できる」（A）とする。

・法や権利について学んだことを踏まえ、よりよい社会秩序の形成に対して、意見を記入し、なおかつ、合意形成後にでた結論に対しても意見できているものには「おおむね満足できる」（B）とする。

・個人の意見を多角的に考察できておらずグループワークに参加した結論に対して、論拠を示せない場合は「努力を要する状況」（C）とする。

次の例1の2つの記述は、個人としての見解を出す際、権利や法に関して多角的に意見を記述できており、合意形成後の結論に対しても、社会秩序形成のため、多角的な考察ができ、主体的に社会に関わろうとしていると評価できる。

<例1：「満足できる」状況（A）と考えられる生徒の記述例>

罪を重くする要素と、軽くする要素を挙げてみよう（それぞれ3つ以上）

罪を重くする要素	罪を軽くする要素
ガラスをたたき割った お金を奪った 逃げた	子供が病気 住宅ローンの支払いができていなかった 給料が減っていた。 修理費用と奪った10万円を返した

事例について、量刑を決めてみよう（個人作業）

懲役      2 年      6 月      （執行猶予 有< 1 >年・ 無）

グループで、意見交換をして、グループとしての結論を出してみよう。

（意見が分かれたら多数決）グループの結論

懲役      2 年      0 月      （執行猶予 有< 2 >年・ 無

執行猶予が短すぎると被害者側の気持ちが汲めない  
加害者側から見ると長すぎると家族にも影響が出る。

罪を重くする要素と、軽くする要素を挙げてみよう（それぞれ3つ以上）

罪を重くする要素	罪を軽くする要素
器物破損 お金を盗んだ 不法侵入	警察に捕まったのは初めて 修理費用を全額弁償した 十分にお金がなかった

事例について、量刑を決めてみよう（個人作業）

懲役 5 年 0ヶ月 （執行猶予 有 < 3 > 年・ 無）

グループで、意見交換をして、グループとしての結論を出してみよう。

（意見が分かれたら多数決）グループの結論

懲役 3 年 0か月 （執行猶予 有 < 2 > 年・ 無

執行猶予が二年ある理由は初犯である、反省が見える、弁償したなどがあるから。  
懲役は被害者が嚴重に処罰してほしいと言っていたから。

次の例2の2つ記述は、個人としての見解を出す際、権利や法に関して意見は記述できており、合意形成後の結論に対しても、意見は記述できているが、社会秩序形成のため、多角的な考察について明確に記述されていないため「おおむね満足できる」(B)とした。

<例2：「おおむね満足できる」状況(B)と考えられる生徒の記述例>

罪を重くする要素と、軽くする要素を挙げてみよう（それぞれ3つ以上）

罪を重くする要素	罪を軽くする要素
・ハンマーでガラスをたたき割る ・お金を奪った ・防犯カメラの映像の姿 ・被害者側の意見	・減給 ・ボーナスなし ・子供の病氣 ・全額弁償

事例について、量刑を決めてみよう（個人作業）

懲役 2 年 6ヶ月 （執行猶予 有 < 1 > 年・ 無）

グループで、意見交換をして、グループとしての結論を出してみよう。

（意見が分かれたら多数決）グループの結論

懲役 4 年 6か月 （執行猶予 有 < 1 > 年・ 無

初犯、住宅ローンの滞納、子供の医療費、全額弁償、反省していることから、長くとる必要はない。

罪を重くする要素と、軽くする要素を挙げてみよう（それぞれ3つ以上）

罪を重くする要素	罪を軽くする要素
自主しなかった 計画性がある	急なボーナスカット 初犯 全額返した 反省の色が見える

事例について、量刑を決めてみよう（個人作業）

懲役 0 年 5 月 （執行猶予 有 < 2 > 年・ 無）

グループで、意見交換をして、グループとしての結論を出してみよう。

（意見が分かれたら多数決）グループの結論

懲役 3 年 6 月 （執行猶予 有 < 4 > 年・ 無

初犯だからこれくらいが妥当

B：合意形成の授業による評価

第4時の○印は、「政治と権力」に関して、具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現しているかを評価する場面を想定している。

【評価基準】・評価をする上での必須項目

- ・個人の意見を表現できている
- ・グループワークに参加し結論を出すことができる

【上記の条件を満たしたうえで（基本的にはワークシートへの記載をもとに判断するため、授業参加者全員が満たすこととなる）】

- ・法や権利について学んだことを踏まえ、合意形成や社会参画を視野に入れながら、自身の意見を論拠をもち表現でき、主題の解決に向けて事実を基に功罪を考察し、結論に対して幅広く考察できているものには「満足できる」(A)とする。
- ・法や権利について学んだことを踏まえ、合意形成や社会参画を視野に入れながら、自身の意見を論拠をもち表現でき、その主題の解決に向けて事実を基に考察し、結論を表現できているものには「おおむね満足できる」(B)とする。
- ・個人の論拠を具体的に示せておらず、主題の解決に向けて幅広く考察できておらず、結論を表現できていないものは「努力を要する状況」(C)とする。

次の例3の3つの記述は、個人としての見解を出す際、論拠をもち表現できており、合意形成後の結論に対しても、多角的な考察ができ、主題の解決に向けて事実を基に協働して主体的に社会に関わろうとしていると評価できる。

<例3：「満足できる」状況（A）と考えられる生徒の記述例>

例：   高校で携帯電話の使用を検討することとなった。

- 案1 授業中以外は完全使用許可
- 案2 始業前、放課後は使用許可
- 案3 現行通り
- 案4 持ち込み不可

（あなたの意見を一人で考え書いてみよう！）

案 3 とする	理由 1, 2だと少なからず授業に影響が出る可能性がある。 4だと家族との緊急の連絡の際に困る。よって現状通りが妥当。
---------	--

グループで話し合い1つの案に決めよう！

（メリットデメリットも考えながら話をしてみよう）

案 3 とする	理由 特に変更の必要を感じないから。他の案に比べてデメリットが小さく、授業に集中できるのがメリットだが、校内で使用できず、使用するには教師の許可が要るのが多少のデメリット。
---------	--

(あなたの意見を一人で考え書いてみよう！)

案 2 とする	理由 親に帰り方を伝えたりする際に放課後学校での使用を許可して自分がどうするのかをLINEなどで相談したいから。 バスの待ち時間の消費に便利！
---------	--

グループで話し合い1つの案に決めよう！

(メリットデメリットも考えながら話をしてみよう)

案 2 とする	理由 メリット：親や友達への連絡がしやすく、校門まで行かずに済む 学校での思い出作り！調べやすい制限がない デメリット：送信音や着信音が鳴り響く 始業前にやめない人がある。 対策方法：ブロックする 没収する
---------	--

(あなたの意見を一人で考え書いてみよう！)

案 2 とする	理由 親との連絡を毎回先生がいなくてできないのが不便だから それ以外だと授業中使う人が出てくるから
---------	--

グループで話し合い1つの案に決めよう！

(メリットデメリットも考えながら話をしてみよう)

案 / とする	理由 メリット…自由時間を有意義に過ごせる。調べもの楽 デメリット…使う人がルールを守れないかもしれない ルールをしっかりと決めれば良いと思う。破った人が悪い
---------	--

次の例4の記述は、合意形成や社会参画を視野に入れながら、自身の意見を論拠を持ち表現でき、その主題の解決に向けて事実を基に考察できているが、結論に対して功罪を含めて多角的に表現ができていないため「おおむね満足できる」状況(B)としている。

<例4：「おおむね満足できる」状況(B)と考えられる生徒の記述例>

(あなたの意見を一人で考え書いてみよう！)

案 2 とする	理由 休み時間にも使えてしまうと授業との切り替えがつかない。
---------	--------------------------------

グループで話し合い1つの案に決めよう！

(メリットデメリットも考えながら話をしてみよう)

案 2 とする	理由 メ 校門を出なくても連絡ができる。LINE交換、 デ
---------	-------------------------------------

次の例5の記述は、個人の論拠を具体的に示せておらず、主題の解決に向けて幅広く考察、表現できていないため「努力を要する」状況（C）と考えられる。そのため今後の学習に向けて、根拠をもち表現することや他者の意見の考察などをできるように促していくことが必要である。

<例5：「努力を要する」状況（C）と考えられる生徒の記述>

（あなたの意見を一人で考え書いてみよう！）

案 3 とする	理由	今のままでいい 支障ない	いけないから
---------	----	--------------	--------

グループで話し合い1つの案に決めよう！

（メリットデメリットも考えながら話をしてみよう）

案 2 とする	理由	
---------	----	--

（あなたの意見を一人で考え書いてみよう！）

案 1 とする	理由	使いたい!
---------	----	-------

グループで話し合い1つの案に決めよう！

（メリットデメリットも考えながら話をしてみよう）

案 1 とする	理由	親の送迎の点で便利. 便が良い
---------	----	-----------------

## 5 今後の課題

- ・生徒の活動の多い授業での評価を試みたが、基本的には活動に参加はすることができるが、その評価となると、ワークシートを利用した評価となるため、活動自体への直接的な評価となっているかという難しさを感じた。
- ・評価の（A）（B）（C）に対する、基準に明確さを出すためにも、条件を指定して書いているかということが評価の対象となっているために、実際は協議や合意形成の過程で、論拠をもつことができたととしても、記載されていない場合は低い評価となってしまうことが懸念される。意見の良し悪しで判断するのではなく、生徒独自の意見を論拠をもって協議・合意形成することが大切であるため、活動自体への評価の方法を検討する必要がある。
- ・法の基本的な考え方に関する正確な理解に基づき、身近な主題についてさまざまな考え方を踏まえて判断し、みずからの意見や主張を表現することを通じて、法の意義や司法参加について関心を高めさせることを単元の目標と設定した中で、生徒はこの活動自体に非常に前向きに取り組む姿勢がみられ、熱心に議論を深め、身近な問題として、主体的に取り組む姿勢がみられた。生徒が何を感じており、どのような考えをもっているのかをはかり知ることができるとともに、教員側の想定しない観点や、考え方に触れることもできたため、今後の授業づくりの一助となった。